－　一般論文　－

**和文論文投稿のためのテンプレート**

**－副題がある場合は2行目に（MS明朝/Time New Roman 10.5 pt Bold中揃え）－**

環境　一郎 \* †・学会　花子 \* \*・科学　研二 \*\*\*

\* （社）環境科学会　〒135-0006　江東区常盤2-9-7　グリーンプラザ深川常盤201

\*\* 2人目以降も所属先と住所を記載してください。

\*\*\* 全員の所属が同じ場合，\*を用いた記載は不要です。

† Corresponding author: 連絡担当者のメールアドレスを記載してください。

**摘　要**

本テンプレートは，環境科学会誌論文投稿のために作成したものです。刷り上がりをイメージしてはいませんが，おおよその刷り上がりページ数の把握，記載内容・方法の統一，そして論文査読をスムーズに実施するために作成したものですので，本テンプレートに上書きして投稿原稿を作成してください。

余白は上下左右とも30mmとし，１段組でお願いします。左上コーナーに一般論文・研究資料等の掲載を希望する論文の種類を書き，ついでタイトル，著者名，所属，摘要（800字以内：本テンプレートで25行以内），キーワード，簡略表題を書いてください。

和文原稿の場合タイトルは日本語で記述してください。なお，タイトル，著者名，所属先，摘要等の間は，本テンプレートのように行間を一行空けてください。

本文は改ページして２ページ目から（タイトルページが１ページに収まらない場合は３ページ目から）書き始めてください。

**キーワード：**日本語5語以内でキーワードを書いてください。

**簡略表題：** 30文字以内で簡略表題を書いてください。

**１．はじめに**

　2ページ目（タイトルページが１ページに収まりきらない場合は３ページ目）から本文を書き始めてください（ページ番号は1ページとします）。ページレイアウトは32行×35字とし，行番号をつけてください。なお本テンプレート2ページで刷り上がり約1ページに相当します。

章と章の間には1行空白を入れてください。

**２．研究方法**

**2.1　見出し**

「節」は 1.1，1.2，2.1，「項」は1.1.1，1.1.2，2.2.2のように書いて下さい。

**2.2　フォント**

本文はMS明朝で書き，サイズは10.5ptとしてください。英数字は半角で書きTimes New Romanとしてください。本文中では，慣用の場合および数式や記号などやむを得ない場合を除き，見出し以外にボールド体（太字）を使用しないでください。

**３．結果（**または**結果と考察）**

　本文中の図表の参照位置近くに図表を貼り付けてください。図，表は原則そのまま製版に使用できるものとし，タイトルや軸の説明等は和文で書いてください。印刷した際に図表中の文字が読めるように，最小でも1.5mm以上の高さになることを想定し，作成してください。

（１行空け）

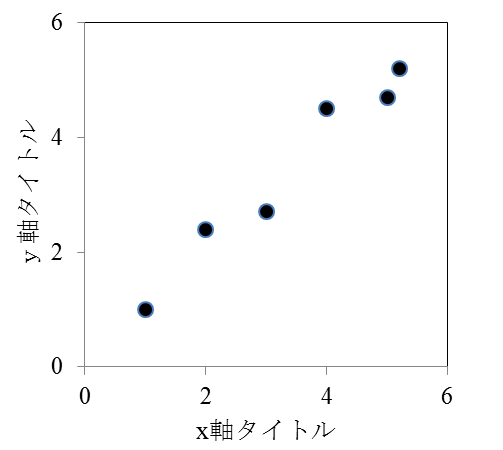


図1　図のタイトルは図の下に

表1　表のタイトルは表の上に

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 和文 | 英数字 |
| 余白（上下左右） | 30 mm | 同左 |
| 行数 | 32行 | 同左 |
| 文字数 | 35字 | 同左 |
| フォント | MS明朝 | Times New Roman |
| フォントサイズ | 10.5pt | 同左 |

**４．考察（「３．結果と考察」として章立ての場合は不要）**

引用文献は，○○○○1)，○○○○2), 3)，○○○○4-7)のように上付きにして通し番号で示してください。英文摘要等は改ページして最終ページに記載してください。

**文　献**

1. 川島元樹・戸部達也・加賀昭和・近藤　明・井上義雄・達脇浩平（2007）琵琶湖・淀川流域におけるPRTR化学物質のスクリーニングレベル環境リスク評価．環境科学会誌，20，119-132．
2. Seppala M., T. Paavola, A. Lehtomaki and J. Rintala (2009) Biogas production from boreal herbaceous grasses-Specific methane yield and methane yield per hectane. Bioresouce Technology, 100, 2952-2958.
3. 巌佐 庸・菊沢喜八郎・松本忠夫・日本生態学会（編）（2003）生態学事典，共立出版，682 pp.
4. Labar K. S. and J. E. LeDoux (2003) Emotional learning circuits in animals and humans. *In* R. J. Davidson, K. R. Scherer and H. H. Goldsmith (Eds) Handbook of Affective Sciences (Series in Affective Science), Oxford University Press, New York, 52-65.
5. 田崎智宏・沼田大輔・松本津奈子・東條なお子（2010）経済的インセンティブ付与型回収制度の概念の再構築　～デポジット制度の調査と回収ポイント制度の検討から～．国立環境研究所報告，205，163pp.
6. FAO, FAOstat, http://faostat.fao.org/default.aspx,（accessed 2008-5-17）．

**English Title (Times New Roman 10.5 pt Bold Centering)**

Ichiro KANKYO \*, Hanako GAKKAI \* \* and Kenji KAGAKU \*\*\*

\* Society of Environmental Science, 2-9-7 Tokiwa, Koto-ku, Tokyo 135-0006, Japan

\*\* 2人目以降も所属先と住所を記載してください。

\*\*\* 全員の所属が同じ場合，\*を用いた記載は不要です。

**Abstract**

英文摘要を200 words以内で書いてください（Times New Roman）。第1ページと同様にタイトル，著者名，所属先，摘要等の間は，本テンプレートのように行間を一行空けてください。

**Key words:** 英文キーワードを日本語キーワードと同じ順で，5 words以内で記載してください。